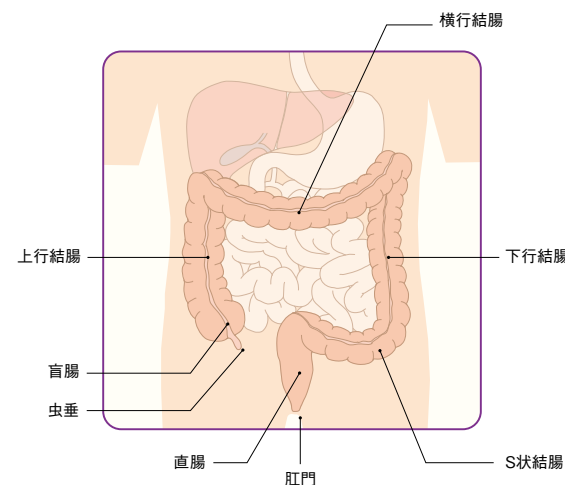


大腸がん



急増する大腸がん

がんの中でも患者数が急増し、毎年罹患する人が6万人に達すると言われる大腸がん。女性の死亡率の第1位、男性では第4位となっている。患者数は50歳代から増加し、高齢になるほど多くなる。高齢化社会の到来と生活の欧米化により患者数はますます増え、2015年には罹患率で第1位に、死亡率でも肺がんに次いで第2位になると言われている。

大腸がんは、結腸がんと直腸がんに大別される。どちらも自覚症状が出にくく、がんが大きくなって大腸の内腔が狭くなったり、腸閉塞を起こしてからその腹痛で気づくことが多い。進行した段階で見つかることが多い。がんからの出血もあるが、がんが肛門から遠いと血液は変色して黒くなり見過ごされることが多く、真っ赤な血便であっても痔と考えて病院に行くのをためらう人が多い。

早期発見・早期治療で根治を目指す

「大腸がんは早期なら根治も十分期待できる。気になることがあつたら、すぐに病院へ」と下部消化管外科の富田尚裕主任教授は注意を促す。

富田主任教授は、「PET検査や便潜血反応で陽性所見が出ることもあり、積極的に検査を受けて欲しい。ただ、良性ポリープの場合もあるため、陽性が出ても気を落とさずに。40歳代以上の方は大腸内視鏡検査を2、3年に1度受けることが望ましいですね。家族に大腸がんを患った人がいるなら、特に注意が必要です」

と話す。「予防には、赤身肉を控え、緑黄色野菜を多くとるなどバランスのとれた低脂肪高繊維の食事が大事です。また、運動することによって発生リスクが減少します」。

大腸がんは抗がん剤がよく効くがんの一つでもある。このため、進行直腸がんの外科手術の場合では、手術前にがんを小さくしたり、手術後の再発を防ぐ目的で、外来化学療法室や放射線科と連携しながら、放射線化学治療を行うこともある。これらのおかげもあり、リンパ節転移があるステージⅢでも、兵庫医科大学での5年生存率は86%と非常に高い。

レベルの高い内視鏡治療

がんが粘膜下層1mm以内にとどまる早期がんなら、患者さんの体への負担も少なく、入院も3、4日の短期ですむ内視鏡治療が有効となる。大腸がんの治療に用いられる内視鏡治療には、大きく分けて内視鏡的ポリーペクトミーとEMRの2つがあ

る。ポリーペクトミーは、隆起している腫瘍の根元にワイヤーをかけて高周波電流で焼き切るもの。一方、EMRは、腫瘍が隆起していても、その粘膜の下に生理食塩水を注入し、隆起させてからワイヤーで焼き切る方法。さらに大きな病変には、特殊な電気メスで大きく切り取るESDと呼ばれる方法が用いられることがある。

これらの内視鏡治療に大切なのは、的確な診断。内科下部消化管科の松本馨之主任教授は、「内視鏡のカメラで、がんの大きさ、形、表面の凹凸、ひきつれ具合などを見れば、深さもわかります」と自信をのぞかせる。大腸の壁は胃よりも薄く、



内科 下部消化管科
まつもと たかゆき
松本 馨之 主任教授

まれに出血したり穴が開くこともあるので、そのような偶発時の処置も含めて高い技術が必要となる。兵庫医科大学では週に5〜6例の内視鏡治療を行っており、「難易度の高い症例も多く扱っているので、診断する能力も治療技術も非常に高いレベルにあると思います」と内視鏡センターの堀和敏講師は話す。



大腸内視鏡検査を行う堀講師

機能を温存する外科手術

がんが粘膜にとどまらず、筋層に入っている進行がんの場合は外

科手術となる。結腸がんの場合、がんのある部分を周囲のリンパ節とともに切除するのが基本となる。

一部の結腸を切除しても特に大きな後遺症はない。

直腸がんの場合、直腸の周囲には膀胱や尿道、男性なら前立腺や精嚢、女性なら子宮や卵巣、膈などがあり、これらの臓器に関連する自律神経が直腸に張り付くように分布しているため、少し複雑だ。

兵庫医科大学では、膀胱や性功能をつかさどる自律神経を温存する「自律神経温存術」や、人工肛門を作らない「肛門括約筋温存手術」など、できる限り患者さんのQOLを保つ手術を行っている。「かつては、直腸がんの半数近くが永久人工肛門を作っていたようですが、現在では肛門に近い下部に限っても1割もありません」と富田主任教授。肛門側から直腸と肛門部を直接縫い合わせる経肛門吻合術など高い技術がこれを

支えている。

「ただ、80〜90歳代の高齢の方で寝たきりの場合など、人工肛門のほうが介護しやすいこともあります。その場合は、あえて人工肛門を作ることもありますね」。兵庫医科大学には人工肛門（ストーマ）ケア専門の認定看護師が在籍しており、人工肛門のケアに外来でも対応している。患者さんとご家族のQOLを一番に考える兵庫医科大学の姿勢が表れている。

大腸がん治療実績 (2008年1~12月)

原発性大腸がん切除手術	177件
結腸がん手術	91件
うち 開腹手術	85件
腹腔鏡下手術	6件
直腸がん手術 (開腹手術)	86件
大腸がん肝転移手術	14件
肛門括約筋温存手術	78件
自律神経温存術	84件
内視鏡治療	85件
うちポリーペクトミー	69件
EMR	43件

(※複数病変のあることが多いため合計数字は合わない)